

報道関係各位

2012年2月3日

日本アキュレイ株式会社

全国の“がん”治療経験者 618 名を対象 「放射線治療に関する調査結果」発表
～放射線治療に対する低い認知度が明らかに～

半数近くの 45%が、放射線治療の有用性と自分のがんへの 適応有無をよく“知らない”

日本アキュレイ株式会社（社長:穂積 重紀、本社:東京都千代田区）は、がん治療の経験者を対象に放射線治療の有用性と適応に関する意識調査を実施致しました。その結果、自分の罹患したがんに対し、放射線治療の適応有無を「知らない」と回答した方が半数近くの 45.4%に上りました。

※放射線治療には、従来型放射線治療、定位放射線外科手術（SRS）、体幹部定位放射線治療（SBRT）等を含みます。放射線治療の適応が“ある/ない”について、それぞれ「知っている」/「知らない」で評価しています

■放射線治療に適応のあるがん患者においても、3人に1人が“知らない”と回答

近年、国内において放射線治療が適用されるがんの部位は、主に頭蓋内・頭頸部・肝臓・腎臓・膵臓・肺・皮膚・乳房・子宮・前立腺などとその範囲が広がっています。調査では上記の放射線治療の適応があるがん患者のうち、自分の罹患したがんに対する放射線治療の適応有無を「知らない」と回答した割合は 35.3%に及びました。これは 3人に1人の患者が、放射線治療を自分の治療の選択肢の1つとして認識していない可能性を示しており、日本の放射線治療が未だに低水準である一要因と考えられます。

■放射線治療経験者の満足度は高く、患者全般からの今後の治療への期待値も高い

調査では、放射線治療を経験した患者の割合は全体の 19.9%と、欧米の水準（米国約 70%、英国約 56%）と大きく乖離し、放射線治療を受ける方が少ない実態が改めて示されました。

一方、3大治療法の経験者に評価してもらった結果、「満足」/「どちらかといえば満足」と回答した割合は、外科治療 89.9%・放射線治療 83.7%・化学療法 73.7%の順となりました。また、今後の治療への期待においても、外科治療 72.6%・放射線治療 63.6%・化学療法 57.4%と、放射線治療が外科治療に次ぐ高い満足度/期待値を持つことがわかりました。

国内において放射線治療の治療経験者は少ないものの満足度/期待値は高いことから、有用性と適応有無への理解が深まれば、より重要な治療の選択肢の1つとして放射線治療が普及することが期待できます。

今回の調査を受け、埼玉医科大学 国際医療センター 包括的がんセンター 放射線腫瘍科 客員教授の土器屋卓志医師は、「放射線治療について、治療方法自体の認知は進んでいるが、特徴、メリットなど具体的な内容まで理解が進んでいないということが分

かります。今後、高齢の患者さんが増えるに伴い、侵襲の大きな手術や抗癌剤治療が難しい場合も増えてくる可能性があります、まずは適応有無や治療方法についての理解を進めることが必要です。QOL（生活の質）の高いがん治療のためにも、近年開発が進み利用が可能となっている IG-IMRT（画像誘導による強度変調放射線治療）や SBRT（体幹部定位放射線治療）等の高精度な放射線治療を浸透させ、患者さんの選択肢を広げることが大事になってくるでしょう」とコメントされています。

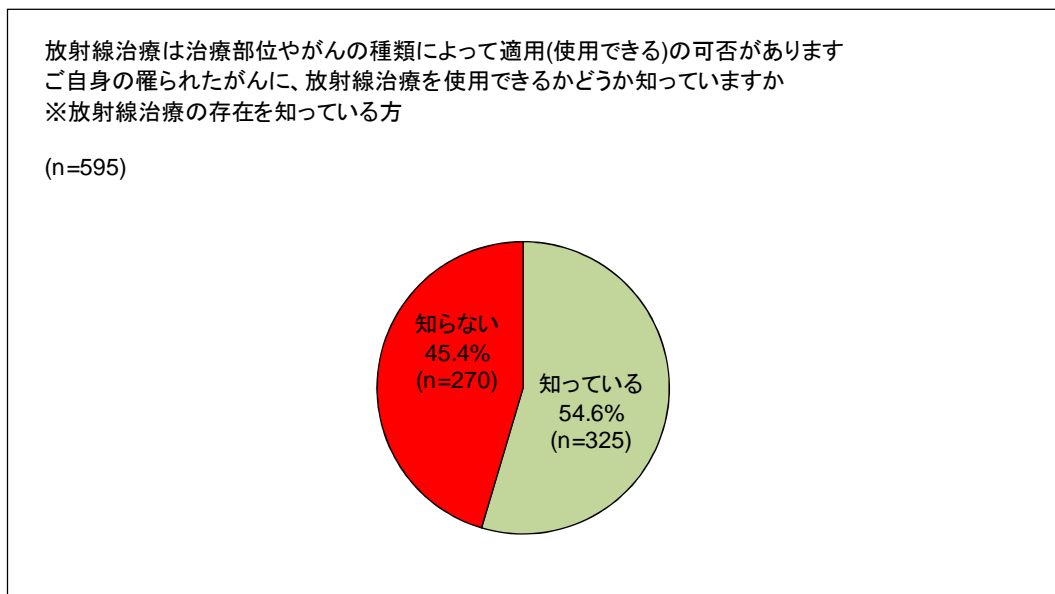
《調査概要》

- 調査時期：2011年08月29日（月）～2011年08月30日（火）
- 調査対象：全国のがん治療経験者 男女618名（男性：309名、女性309名）
※全国のがんへの罹患経験者を対象に募集、無作為に合計618名を抽出
- 調査手法：インターネットリサーチ

☆ 半数近くの45.4%が自分のがんへの放射線治療の適応有無を“知らない”

放射線治療を「知っている」と回答した595名（全体の96.3%）のうち、自分の罹患したがんに対する放射線治療の適応有無を「知っている」と回答した割合は325名（54.6%）、残りの270名（45.4%）は「知らない」と回答しました。

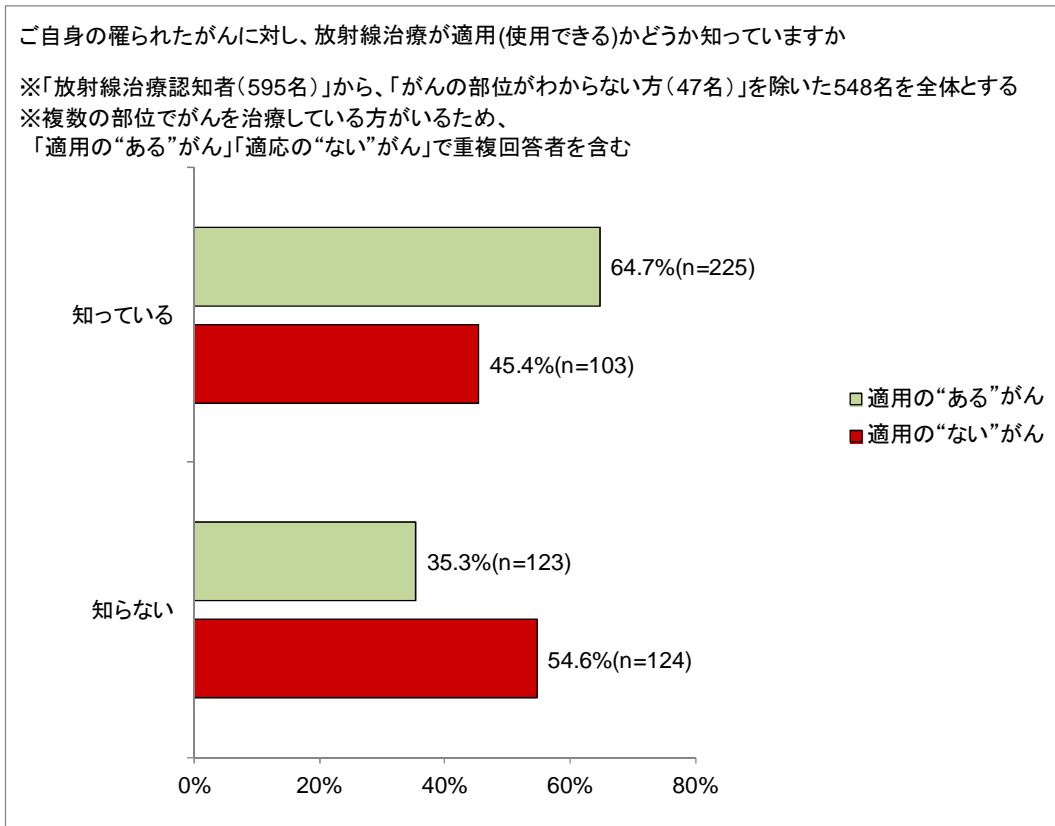
【図1：自分の罹患したがんに対する放射線治療の適応有無】



☆ 適応がある患者でも、3人に1人（35.3%）が適用の可能性を“知らない”

放射線治療の適応対象部位のがん患者348名のうち、自分の罹患したがんに対する放射線治療の適応有無を「知っている」と回答した割合は225名（64.7%）、残りの123名（35.3%）は「知らない」と回答しました。

【図2：放射線治療の適応有無と、自分のがんへの適応認知】

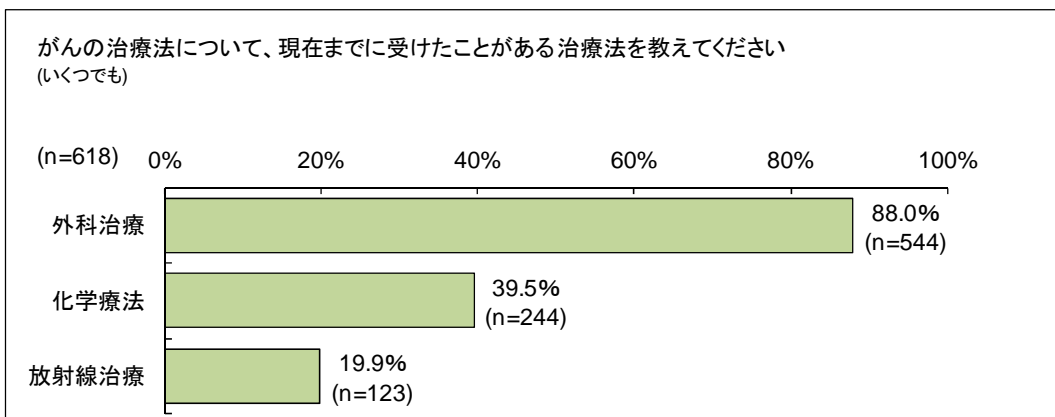


☆ **がん患者における、放射線治療の経験者は全体の19.9%と低水準**

放射線治療の治療経験者は19.9%に留まり、従来指摘※されている「がん患者における放射線治療経験者約25%」に近い結果となりました。この割合は、欧米諸国の米国約70%、英国約56%と比較しても未だに低水準です。

※厚生労働省「第三回がん対策推進協議会」における提出資料より。

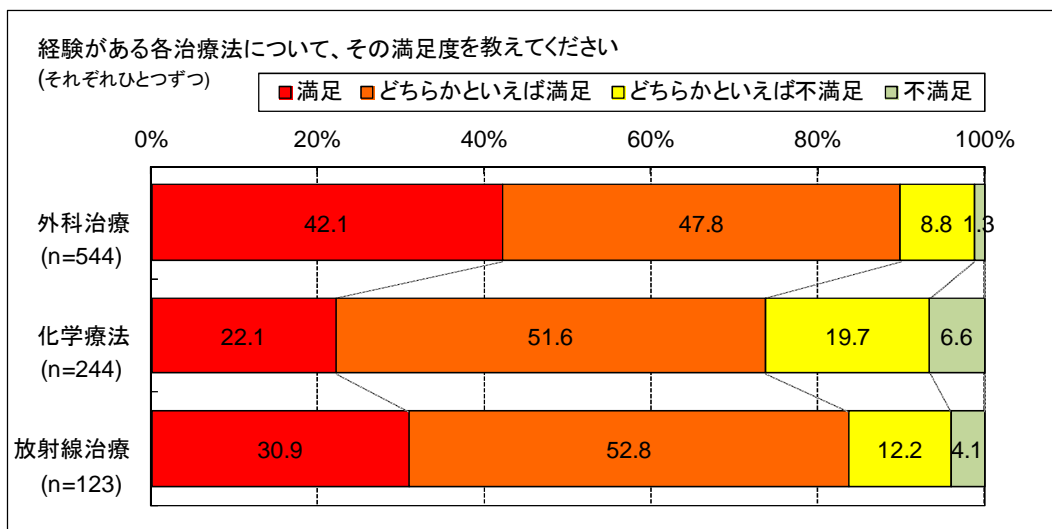
【図3：過去の治療経験（複数回答）】



☆ 3大治療法に対する満足度と、放射線治療の経験満足度／項目評価

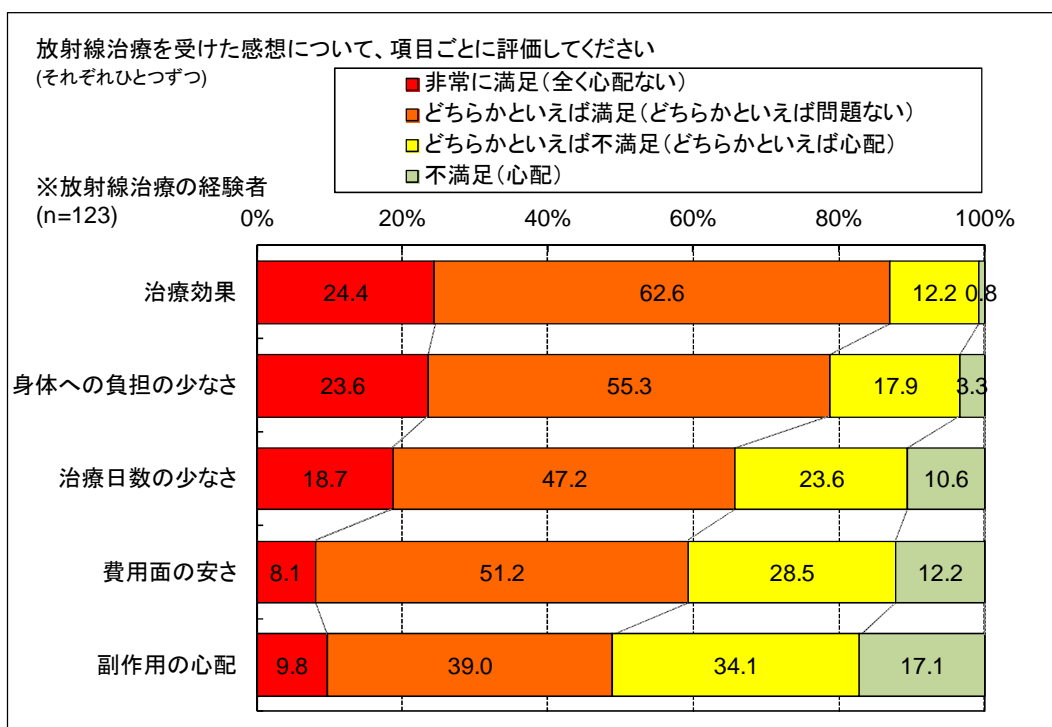
がんの3大治療法について経験者にそれぞれの満足度を調査した結果、「満足」／「どちらかといえば満足」と回答した方の合計が83.7%となり、外科治療89.9%に次ぐ結果となりました。※自分の経験のある治療法のみについて回答いただいた結果です

【図4：過去に受けた治療法に対する満足度】



放射線治療の経験者に対し、治療を受けた感想を尋ねた所、副作用については半数の方が「心配」／「どちらかといえば心配」と回答したものの、「治療効果」・「身体への負担の少なさ」・「治療日数の少なさ」など放射線治療の特徴への評価が高い結果となりました。

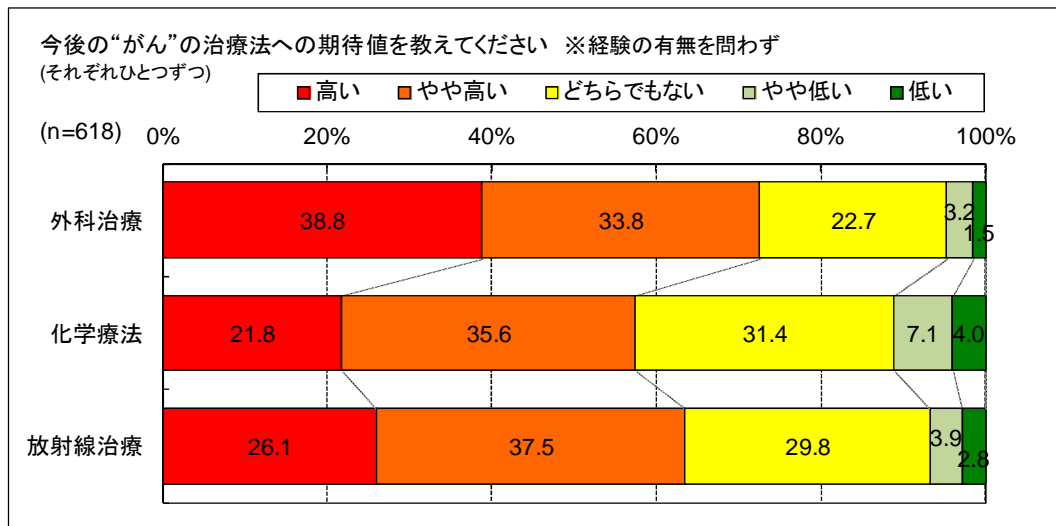
【図5：放射線治療の項目別評価】



◇ 各治療法に対する期待値（経験有無問わず）

全ての回答者に各治療法への期待値を尋ねたところ、「高い」／「やや高い」と回答した割合は、外科治療 72.6%・放射線治療 63.6%・化学療法 57.4%となり、経験者の満足度と同様、外科治療に次ぐ期待値を集めていました。

【図 6：各治療法に対し、全ての患者が持つ期待値】



本件に関するお問い合わせ先

株式会社プラップジャパン（日本アキュレイ株式会社広報代行） 神木 亮／荻原 麻理
TEL：03-4580-9107 FAX：03-4580-9133 r-kamiki@prap.co.jp / m-ogihara@prap.co.jp

日本アキュレイ株式会社 マーケティング 武田 卓子／相子 純子
TEL：03-6269-9562 FAX：03-3217-0337 ttakeda@accuray.com / jaiko@accuray.com